

## 理事会議事録

日 時：2005年7月2日(土)11:00--18:15

場 所：国立天文台南研大会議室

出席者：祖父江，花岡，杉山，北本，関井，蜂巢，和田，田，馬場，富田，浅田

欠席者：なし

有効委任状提出者：井上，黒田，百瀬，成相

ほかに，河野年会実行委員(百瀬理事の代理)，東條事務長が出席した。

議 長：祖父江義明

署名人：北本俊二，花岡庸一郎

## 報 告

### 1. 前回議事録の確認(資料1)

花岡理事より前回(2005年3月28日)の理事会議事録が報告され，原案どおり承認された。

### 2. 2005年秋季年会について(資料12)

馬場理事より準備状況について報告がされた。10月5日に記者会見，10月6--8日に年会講演で懇親会は10月7日である。懇親会場は年会場から地下鉄で2駅離れているので，総会出席者はバスで懇親会場へ輸送する計画である。公開講演会は10月9日に札幌コンベンションセンターにおいて世界物理年企画として開催，共催の札幌国際プラザにより各方面への広報が行われる。

引き続き2006年の和歌山大学での春の年会について富田理事より，3月26日に記者会見と講演会，27--29日に年会の予定で準備を進めている，会場がやや交通不便なので輸送手段を検討中である，との報告があった。また，2006秋の九州国際大での年会について浅田理事より，9月18日に記者会見と講演会(児童文化科学館プラネタリウム，惑星関連の話題を予定)，19--21日に年会の予定で準備中との報告があった。

### 3. その他

#### (1) JSF衛星コンテストについて

北本理事より，6月10日のコンテスト実行委員会に出席した件について報告がされた。JSFは天文学会が主催者として加わることを希望しているが，その場合学会が人員及び費用を負担することが必要となる。参加学会と実行委員会の役割分担をはっきりさせた上で，具体的に学会側にどのような負担が発生するか実行委員会側が見積もることになっている。今後学会側でどのような形で参加するのか対応の検討が必要であり，可能なら10月の理事会で結論を出したい。

#### (2) 講師派遣データベースなど

田理事より，5月にデータベース立ち上げめどが付き，6月に講師の新規登録募集を開始し，評議員経験者や理事に登録を呼びかけているとの報告があった。データベースの問題点の指摘もされており，今後改良やまた学会のウェブページからわかりやすくリンクする等を行っていくが，今回の報告をもってデータベースは正式に立ち上がったという認識である。記者会見で発表して広く周知しては，との意見も出された。学会で費用を負担する講師派遣キャンペーンを行って広く利用されるようにはからうことも検討する。

#### (3) 世界物理年について

祖父江理事長より報告がされた。世界物理年日本委員会では生徒向けの春休みイベント，学生一般向けの春のイベントなど行い，また小中高校生向けの夏休み中のイベントの開催を予定しているが，これらには天文学会員が大いに貢献している。秋の年会の公開講演会も物理年企画である。このように天文学会の関係者がイベントへの参加を要請される場合，その日当謝礼は学会が負担する方向である。なおこれに関連して，学会では講演の謝礼は1万円としているが，安すぎるのではないかという指摘が祖父江理事長よりあった。また，天文学会は日本委員会の財政や物理年イベントの予算には直接関与はしないことにはなっているものの，委員会メンバーとして金銭的な面も注意して見守る必要がある，との指摘

があった。

#### (4) 天文オリンピックについて

花岡理事より、文科省にはオブザーバー派遣をすると連絡しており、今年の開催場所や日程が具体化してきたので実際に現地に行ってもらえる方の人選を行う、との報告があった。

## 議 題

### 1. 新入会員の承認(資料2)

花岡理事より資料に基づき新会員の報告があり、入会が承認された。

### 2. 2006年度事業計画書案(資料3)

花岡理事より資料に基づき2006年度事業計画書案の提案があり、承認された。

### 3. 2006年度収支予算書案(資料4)

北本理事より資料に基づき2006年度収支予算書案の提案があり、諸事業について後ほど議論する部分を除き、承認された。

### 4. 年会運営について(資料5)

河野年会実行委員より年会運営に関する提案について説明があり、以下のように議論した。

(1)企画セッションについて、基調講演の一部であるr講演の扱いを明確化するため、r講演は1企画セッションあたり4件以下とし、また従来どおり招待する非会員(参加費・講演登録費免除)は4名程度を上限とする、という提案がされた。r講演数は制限が必要なのか、招待する非会員数の制限はやめてはどうか、その場合非会員で普通に参加する人と招待する人との差はどう考えるのか、などの議論があった。結論として、r講演が多すぎるのは好ましくはないが、あらわに数の制限をするのではなく年会実行委員会で決める常識的なセッションの構成に従わせる、ということになった。招待する非会員数の制限はそのまま残すこととした。

(2)年会講演数の増大に伴い、従来のスケジュールで予稿締め切り・プログラム決定・月報への掲載の一連の作業を行うのが困難になってきており、予稿締め切りを早めるか月報へのプログラム掲載を見直すかする必要があることについて、前回理事会に引き続き議論を行った。月報への掲載については、止めたり遅らせたりするのは好ましくない、との意見が多数であった。一方、前回暫定措置として締め切りを早めることにした2005年秋の学会の予稿(理事会の時点で受付を既に終了)については、講演数が減ったということもなくまた締め切りが早いことについてクレームもきていない。そこで締め切りを前倒しすることに決定し、それによって懸念されるキャンセルの増加や予稿の質の低下についてはしばらく様子を見ることとなった。

### 5. 黒字財政と諸事業について(席上配布資料)

関井理事・北本理事から、学会財政の黒字を会員への還元や新事業に投入していく計画の諸項目について説明され、その中で以下について説明・議論が行われた。

ジュニアセッションに対する支出増 金額が小さいため(5万円/年)会計の判断で既に認めた。

月報PDFファイルの購入 印刷会社が月報印刷のために作っているものを学会で購入するというものである。1万円/月程度であり、進めることとなった。今後印刷会社との契約にPDFファイルの納入も含める。

月報(印刷版しかない2003年以前のもの)のスキャンによるPDF化 今年度--来年度に最近の1994年--2003年、および創刊からの10年分について実施することを認めた。PDF化したものはウェブに掲載して公開し、その利用頻度を見て残りの分の作業の進め方を検討する。

学会予稿集の値下げ 最近は年会の会計が黒字となっており、現在2,000円としている予稿集の値下げが可能である。ただし1,000円に値下げすると予稿集制作費は予稿集売上げだけではまかなえない。1,500円ではどうかという意見もあったが1,000円に賛成というのが多数意見であったのでこれに決し、来年度から実施する。

PASJ投稿料減額等 蜂巢理事および学会事務の黒岩氏より、PASJへの投稿誘致のため投稿料を半額および無料にした場合の費用見積り等の説明がされた。例えば半額キャンペーンでは1.5倍程度投稿論文

数が増えることを想定できるが、学会の負担増も少なくない。これによる予算の変化の大きさは学会の財政を左右するほどであるため、評議員会でもこの件について説明し議論を行っていく。また、祖父江理事長よりPASJの論文数を増やし月刊化を目指すことへ向けての呼びかけがあった。月刊化実現によりPASJの地位向上を図る、という趣旨である。

百年史出版 杉山理事より、簡易的に製作すると500万円程度、書店で扱えるような体裁にすると700万円以上、場合によっては900万円を超える、という大まかな見積り紹介があった。金額を見積もる上で前提となる100年史の配布範囲については準会員まで含めた会員全部に配るのがよいのではないかと、体裁も書店で扱えるレベルのものがよいのでは、という意見があった。今後も編纂委員を中心に検討を続ける。

評議員会には諸事業のなかで理事会の議論で進んだものを中心に紹介し、議論を行う。

## 6. 2005年秋季総会議題(資料6)

原案どおり承認した。

## 7. 民間の研究助成・賞について：委員会設置など(資料7)

杉山理事より、賞や助成への学会からの推薦が少ないため、もっと積極的に推薦される方策を検討中である旨報告があった。これについて祖父江理事長より、推薦依頼を受けたとき理事長・副理事長が推薦者を積極的に出せるような形で進むような事務作業の流れをつくっていくという発言があった。

## 8. 男女共同参画連絡会について

祖父江理事長より、現在の参画連絡会の担当者が形式的に理事長になっているが、対応するための実働がかなり必要であり、学会として実質的担当が必要である、現在黒田副理事長以下3人によるワーキンググループを発足すべく依頼中である、との報告があった。

## 9. その他

### (1) JAXA長期ビジョンについて(資料8)

花岡理事より経緯の説明がされた。JAXAから出された長期ビジョンに対する提言が惑星科学会から出されており、また宇宙空間研連でも検討中である。天文学会としても宇宙科学の発展を期待する立場からの提言ができないか、という提案がある。天文学会はスペース観測ばかりではないので学会としてのまとめは難しいのではないかと、天文研連の方が提言を行うのに適当ではないかという意見もあったが、一方JAXAは日本の宇宙科学に責任を持つ機関であるので学会として期待される将来像を表明するのは重要ではないかと、との指摘もあった。祖父江理事長が中心となって方向を検討することとなった。

### (2) 教育に関する学会声明について(教育問題懇談会)(席上配布資料)

祖父江理事長より経緯および要望書案について報告された。教育問題懇談会では3回のシンポジウムと天文教育フォーラムを開催し、6月26日には中教審への要望書をまとめる方向の会合を行った。あまり具体的に要望事項を入れるのは細かすぎてよくない、具体的要望事項は補足説明という形にしてはどうか、小学校段階でビッグバンまで入れるべきかなど具体的事項の内容も少し見直しが必要、要望書の内容をどうすれば指導要領に反映させられるかその戦略が重要ではないか、などの意見が出され、これらを参考に要望書案を改訂して評議員会にて議論の内容を含めて紹介することとなった。

### (3) 2009年「世界天文年」について(資料9)

祖父江理事長より、ガリレオの望遠鏡での天文観測から400年を記念して2009年を世界天文年とすることが提案されていることについて、国立天文台海部台長から、学会としてユネスコでの天文年制定へのはたらきかけに協賛してほしいとの依頼があり、メールでの意見集約の結果評議員と理事ともに賛成多数で天文学会として協賛することを決定した旨報告があった。世界天文年の日本委員会のようなものを作ると、天文学会は実質的に中心になるであろうことから負担が大きくなることが予想され、マンパワーをどのように確保するか、資金の確保はどうか、等多くの検討項目があることが指摘された。

### (4) PASJの出版・販売について(資料10)

(上記5. の中で合わせて議論した)

### (5) 百年史編纂委員の増員(資料11)

花岡理事より京都大学の富田良雄氏を委員に追加したい旨の提案があることが報告され、承認された。

(6) 夜空を守るため高速道路上向き照明の禁止についての要望書(席上配布資料)

祖父江理事長より、最近の高速道路の上向き照明が夜空を強く照らしており天体観測に大きな支障となるので、禁止できないか要望書を出したい、との説明があった。関連する運動を行っている団体もあるので、連絡を取りつつ進めることとなった。

(7) 次回以降の理事会日程

次回は秋季年会中、10月6日の昼休みに開催し、次々回は2006年1月14日(土)11:00より国立天文台(三鷹)で開催することとなった。

2005年8月2日

議 長 祖父江義明 印

署名人 北本 俊二 印

署名人 花岡庸一郎 印